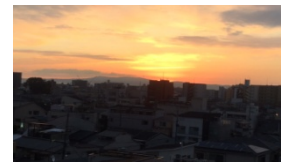
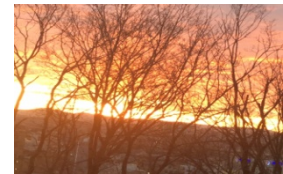


大阪に転居して2年

今から2年前、名古屋から大阪に転居した。大袈裟であるが、私の人生にとって一つの「転機」であり、レポートに記録しておきたい。

じつは名古屋市立大を定年退職したとき、転居しようか迷っていたが、それから3年後になった。とにかく引っ越しが大変だった。退職時に蔵書をかなり整理したが、まだ多くの本や雑誌などが山積みされていた。この際、近くの千種図書館で蔵書を利用してもらおうと、10数回にわたって大きな袋を背負い、20分ほどの距離を歩いて運んだ。退職後にお世話になった名古屋大の図書館にも持って行った。蔵書を捨てるのは避けて、できるだけ図書館で活用してもらいたかった。いま読みたい本も何冊もあったが、仕方がない。押入れのなかに積まれた荷物も、かなり処分した。

こうして片付けに追われた引っ越し騒動を経て、なんとか大阪に居を構えることができた。淀川区の賃貸住宅で、再び沈滞生活を送ることになった。写真上は名古屋星ヶ丘の自宅前の階段から「定点観測」した朝焼けの空。2005年に愛知万博が開催された名古屋市東部。写真下は大阪淀川区の自宅ベランダから撮った生駒山近くの朝焼け。夕焼けもなかなか美しい。転居後のクリスマスの日に、きれいな虹が見えたことも。大阪の自宅から、こんな景色が望めるとは想定外だった。自宅前に高層住宅などが建たないことを願う。



じつは私にとって、二度目の大阪暮らしになる。大阪市立大の大学院をめざして、大学の近くに下宿した。宮本憲一先生のもとで学びたかったからだ。2年間の苦難の浪人時代を経て、6年間の大学院生活を送った。その途中で結婚して、JR阪和線「我孫子町」駅前マンション2階に住んだ。1階の中華料理屋さんが思い出される。それから38年ぶりの大阪暮らしとなる。甘辛い新婚時代とは違って、病気がちの高齢家族である。でも名古屋時代に比べると、落ち着いて暮らせるようになった。平日は朝早く、地下鉄御堂筋線で「あびこ」まで行き、大阪市大の図書館に通っている。なんだか大学院浪人時代に戻ったかのようだ。土曜日の午後は、研究会やシンポジウムなどに参加することが多い。

さて38年ぶりの大阪暮らしには慣れてきたが、腹が立つことも多い。「維新政治」がはびこり、わが生活にも重大な影響を及ぼしつつある。大阪市に転居したが、その大阪府市によって廃止されようとしている。大阪府市を廃止分割する法定協議会なるものを傍聴して、怒りを膨張させている。来年秋から冬の実施が確実視される住民投票に向けて、「わがこと」として立ち向かっていきたい。夢洲で予定されている大阪万博やカジノ誘致についても、環境アセスメントやパブコメなどを発信している。

また大晦日の日に、この1年の調査研究などについて振り返ることにしよう。

(2019年12月6日)